

半世紀を経て都市再生にこめたメッセージ

世界的彫刻家

流政之の

住塚

SUMIZUKA

都市機構プロデューサー——コンフォール東鳩ヶ谷

東鳩ヶ谷ルネッサンス

街に、ルネッサンス



UR

都市機構

時代の風を受けて、街を、住まいを新しくー。

都市再生と住宅建替えの取り組み

人が輝く都市へ

都市機構は都市再生のプロデューサー

都市機構がめざす理想の都市像は「人が輝く都市」です。環境や景観に配慮し、活力に溢れ、人々が生き生きと輝くことができる都市へ、都市再生をプロデュースすることを役割としています。

その業務は産業構造の転換に伴う大規模土地利用再編、都市における生活、交流、経済の拠点の形成、都市の防災性の向上と密集市街地の改善、民間賃貸住宅の供給支援等を通じた良好な住宅市街地の形成、そして既存賃貸ストックを活用した地域生活拠点の整備となっています。



都市再生プロジェクト 晴海トリトンスクエア



機構住宅の建替事業 武蔵野緑町パークタウン

機構住宅の建替事業とは

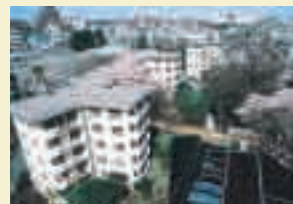
戦後の住宅難解消に向けて、都市機構の前身である日本住宅公団は、大都市圏において集合住宅団地を急ピッチで建設しました。ダイニングキッチンによる食寝分離、内風呂、水洗トイレ、ステンレス流し台など、その画期的な住宅は庶民の憧れの的となりました。

しかし半世紀近く経たいま、それら初期の団地は、恵まれた立地にもかかわらず、敷地の有効利用がなされていないもの、住宅の規模、間取り、設備が今日の水準に比べ劣っているものもあります。

都市機構では居住者の理解と協力を得ながらそれらの住宅を、安全で安心かつ快適な機能、性能を持ち、現代の暮らしに適應できる住宅に建替えています。

また、建替えに際しては地方公共団体とも連携しながら道路や公園、さらに保育所やデイサービスセンター、公営住宅といった公的施設を整備するほか民間事業者との連携による多様な住宅供給など時代にあった居住空間づくりを行っています。

建替事業例



建替前



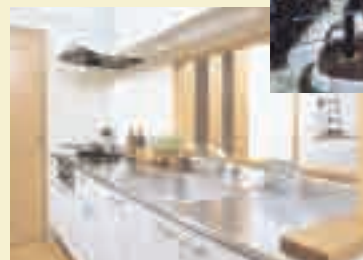
建替前



建替後



建替後に併設された高齢者支援施設



建替後のキッチン

まちの歴史と生活を継承する一。

生活環境とコミュニティ持続への取り組み

住宅団地建替えと環境に配慮したまちづくり

住宅団地の建替えについては、単に新しい住宅を用意するだけではない大事な視点があります。

その地で人生を綴ってきた人々の歴史と暮らしの文化をいかに今後に継承していくか、豊かな緑の自然環境をどのよう

に保全、再生、創造していくか、さらに育ってきた近隣のコミュニティをいかに持続させていくかです。都市機構ではそれらについてさまざまな手法で取り組んでいます。

① 自然環境の保全と再生

グリーンバンクシステム

団地の美しい景観を形成してきた緑を、資産として有効活用するのがグリーンバンクシステムです。樹木を保存する、移植する、リサイクル活用するなどの方法によって、環境負荷の軽減とインフラの形成を図ります。そして地域で愛され、形成されてきた風景の記憶を次の世代に伝えていきます。



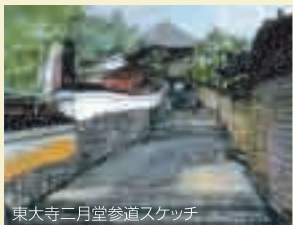
移植樹



保存樹

② 地域の歴史と風土の継承

どの地域にも固有の歴史と風土があります。これら固有の地域資源を生かしたまちづくりを進めます。



東大寺二月堂参道スケッチ

東大寺二月堂への参道をモチーフとして、メインアプローチを構成。歴史に名高い高円山を借景として取り込んでいます。古都奈良の歴史的形態をいかしたデザインが織り込まれています。



メインアプローチの景観 奈良・紀寺

③ 住民参加のまちづくり

緑のワークショップ

成熟した緑の環境とコミュニティの継承をめざして、ワークショップ方式による対話を重ねながら団地の建替えが進められるもの。その成果は年輪を重ねた大きな樹々や以下の取組みに見ることができます。

クラインガルテン

団地内の小さな貸農園がクラインガルテンです。四季それぞれの野菜づくりで、農の大切さ、食物の重要さを学びます。コミュニティの形成にも大きく役立ちます。



緑のワークショップ



クラインガルテン

コミュニティガーデン

居住者によって四季おりおりの草花でまちを美しく演出します。みんなで土をいじり、種を選び、育て、飾る場所を考え、花の手入れをする、自然に隣近所とのつきあいが生まれ、ひろがり、深まり、そして豊かなコミュニティが形づくれます。



コミュニティガーデン

半世紀前、時代を先駆けた“団地”と“パブリック・アート”

① 当時の先進的住宅団地が再び時代をリードする 住宅団地へ

1958年に建設されたこの東鳩ヶ谷団地は、中低層集合住宅で低層各戸に庭が配置されるという、当時としては理想的な住宅と住環境でした。しかし建設後約半世紀経ったいま、建物の老朽化がすすみ、生活水準の向上や居住者のニーズの変化もあって建替えることとなりました。

住宅の規模や間取り、設備、機能の向上とともにながい歳月をかけて熟成してきた緑の環境も、けやきや桜の大木の保存や移植により保全再生されます。



1958年に建設された東鳩ヶ谷団地



建替後のコンフォール東鳩ヶ谷団地



保全されたけやきの大木

② 都市機構のパブリック・アートの先駆。その歴史を継承し再び流政之の空間創造へ

都市機構の前身である日本住宅公団は、団地の共有の庭空間に地域の個性を表現し、住む人々の心の風景を形づくるパブリック・アートの重要性を早くから提唱しました。いち早く実践を試みたのがこの東鳩ヶ谷団地です。これは山口県宇部市をはじめとして全国的にひろがった当時の文化行政「彫刻のあるまちづくり」の先駆的な一例ともなったのです。

コンフォール東鳩ヶ谷は、都市機構のパブリック・アートの先駆けともなった流政之さんのデザインによるアートの再生と、都市再生へのメッセージをこめた新しい彫刻作品の設置を建替事業のテーマにかかげました。

流政之デザインによるダイナミックなアート

東鳩ヶ谷団地の庭空間には、後に世界的な彫刻家となる流政之さん(当時35歳)のスケッチから生まれた、テーブル スツール ベンチ 水飲み 灯籠などが設置されました、日本の風土に根ざした明快な思想が素朴で力強い造形により表現され、団地の暮らしに溶け込み、自然な存在感を醸成していたのです。

これらのうちテーブル スツールを流さん自ら石彫としてリメイクし新しい場所に移して再生するとともに、新たな作品「住塚(SUMIZUKA)」を加えて“アートのあるコンフォール東鳩ヶ谷”として、未来に向けて継承していくことになりました。

流政之さんのスケッチから生まれたアート(建替前)



ベンチ



ベンチ



ベンチ



灯籠



水飲み



テーブル スツール

世界的な彫刻家 流政之と都市機構



世界的に高く評価されている流政之の創造哲学は、美術館のためだけの彫刻ではなく、広大な空間にあって人びとに感動と力を与え、まちおこしの起爆剤となる彫刻です。

1958年、都市機構（当時 日本住宅公団）のまちづくりに共鳴して以来約半世紀、同じこの東鳩ヶ谷に流政之の世界が甦りました。

流政之は、長崎に生まれ、東京・京都で育ち、作刀や研ぎを習得、第二次大戦時は海軍予備学生としてゼロ戦の搭乗員という異色の経歴を持つ彫刻家です。

「サムライアーティスト」としてアメリカを中心に世界的に活躍、タイム誌によって川端康成、三島由紀夫、黒澤明と並んで日本を代表する文化人として紹介されました。

ニューヨークのワールドトレードセンターに置かれた「雲の砦」が9.11のテロ事件のあと、救助活動のため惜しくも撤去されたことも話題となりました。日本芸術大賞、吉田五十八賞を受賞、現在も香川県庵治町にスタジオを構え制作活動を続けています。



「ながれ地蔵」



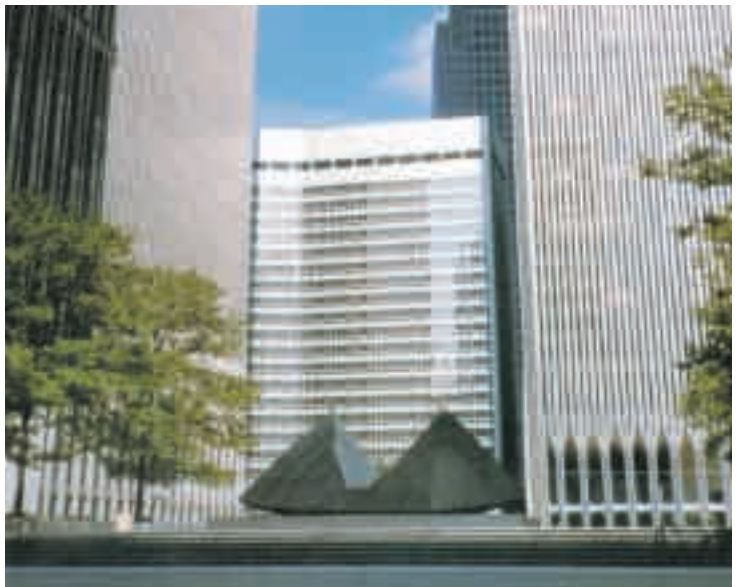
ナガレスタジオ



「サキモリ」

流政之と都市機構

- **1955 日本住宅公団創立**
第二次大戦の日米戦没パイロット追悼のために「飛行空間」制作 初の個展開催 著名アメリカ人に評価される
- 1956 ながれ地蔵制作 石との出会い “割れ肌” 技法を開眼
- **1958 公団 東鳩ヶ谷団地に流政之スケッチによるアートを導入**
- 1960 彫刻「受」がニューヨーク近代美術館蔵となる
- **日本のパブリック・アートの創始期**
- 1962 ロックフェラー夫人 マルセル・プロイヤーらの招きで渡米
- 1963 ニューヨーク世界博 日本館に壁彫「ストーン・クレイジー」制作
- 1966 香川県庵治村にスタジオを建設 以後「バチ」「サキモリ」シリーズなどで、国際的に活動
- 1975 7年をかけニューヨーク・ワールドトレードセンターに250トンの彫刻「雲の砦」を完成
- [「はじめての大空間を鎮めるに足る彫刻が出現」「どの作品も飛翔の衝動を秘めつつ、深々としずまり、重量感を持ちつつも、どれもが無重力の世界を夢見ているようだ」 — 司馬遼太郎]
- 2001 9.11テロにより ニューヨーク・ワールドトレードセンターの「雲の砦」は人命救助のため撤去
- 2004 北海道立近代美術館でNANMOSA NAGARE展（第2会場 流山温泉 彫刻公園ストーンクレイジーの森、第3会場 奥尻島 彫刻公園北追岬）開催。
「雲の砦」はテロに耐え雲のようにはかなく消えたが、人々の心の中に生き続け「雲の砦Jr.」として北海道立近代美術館で甦る。
- **都市機構による東鳩ヶ谷団地建替事業において都市再生にこめたメッセージとして新作「住塚」を提唱**
- **2005 半世紀を経て 都市機構の理念と流政之の創造哲学の原点に戻り「住塚 (SUMIZUKA)」他完成**



撤去された「雲の砦」 ニューヨーク・ワールドトレードセンター

流政之制作の「住塚(SUMIZUKA)」設置 生まれ変わる コンフォール東鳩ヶ谷のアート空間

「住塚(SUMIZUKA)」とは

東鳩ヶ谷団地の建替えにあたって、アートをテーマとしてコミュニティや地域資源の継承を図りたいという都市機構の構想に共鳴して、新たに流政之ならではのコンセプトで「住塚(SUMIZUKA)」が発想されました。

この地に暮らし続けた人々の記憶と歴史を凝縮し、心のふるさととして流政之自ら製作する石の彫刻とともに永遠に残していこうというものです。

「住塚」には住民の思い出の品、心をこめた文章、時代を示す生活用具・住宅建具などがおさめられ、半世紀に及ぶ生活史が未来へ伝承されていくことでしょう。



「住塚(SUMIZUKA)」

都市機構とすすめた準備

平成15年9月：コンセプト提示
平成16年9月：イメージ案提示
平成16年9月～17年3月：制作
平成17年4月23日：除幕式



現地での打合わせ(平成17年3月23日)



思い出の品埋蔵セレモニー(平成17年4月10日)



半世紀を経てリメイクされた「テーブル ツール」



リメイクアート(テーブル ツール)

「住塚(SUMIZUKA)」

東鳩ヶ谷団地のコミュニティの醸成 — ワークショップの開催

第1回 学ぶ — 日本のパブリック・アートの変遷

講師：竹田直樹さん（兵庫県立大学助教授）

1月30日（日）4:00～5:30

（話の要約）

- 戦前は銅像として歴史上の人物や軍人が多く設置されたが、戦時に供出され、戦後はGHQによって多くが撤去されました。
- 戦後すぐは平和 自由といったテーマで制作された裸婦や青年像が多く見られます。
- 1960年頃からは花と彫刻の組み合わせで景観づくりの素材となりました。
- 1964年頃から“彫刻のあるまちづくり”が全国的に展開され抽象的な彫刻や風で動く彫刻も加わりました。
- 1980年代にはふるさと創生事業によって地方都市にも広がりました。
- 1995年頃にはファール立川や新宿アイランドなどを代表とするパブリック・アートの潮流が生まれました。
- また北海道モエレ沼公園や岐阜の「養老反転天命地」のように自然や公園のなかでの芸術家による風景づくりも多く見られました。
- 2000年に入ると都市や自然のなかでインスタレーションというイベントも盛んに開催されるようになりました。



竹田 直樹さん

- 1984年千葉大学園芸学部造園学科卒業
- 野外彫刻に関する研究で学術博士
- (株)都市緑地研究所取締役東京事務所長を経て1999年より姫路工業大学（現 兵庫県立大学助教授）



日本のパブリック・アートの流れを学ぶ
講師 竹田直樹さん



流政之さんと都市機構との
かわりを説明

第2回 創る — 「住塚」づくりに参加する

講師：宮澤 泉さん（石彫家）とその仲間の方

3月27日（日）1:30～4:30

- 芸術家の感性を体験するワークショップで、最初に「住塚」に入れるそれぞれの思いのこもった品を持ち寄りました。子どもたちの愛用の人形や夏休みの作品など、微笑ましい品が集まりました。
- 石彫りの体験では3つのチームに分かれ、それぞれ交代で、まず屋外で安全眼鏡をかけ、たがね、ハンマーの使い方を教わったのち、石の割り方を体験しました。
- そのあとサンドペーパーの使い方や石の持ち方を教わったのち、あらかじめ粗削りしてある、円盤状、角棒、勾玉状などの石を削りました。
- 休憩ののち、薬品をつけた発泡スチロールで石を磨き、早いひとはすでにピカピカになり、時間切れの人は自宅で作業を続けることになりました。たいへん短い時間ながら貴重な体験となりました。



宮澤 泉さん

- 1982年多摩美術大学大学院美術研究科修了
- 雨引きの里と彫刻（茨城）その他 国内はもとよりインドやオーストリアなど海外の彫刻シンポジウムにも積極的に参加 グループ展や個展も多数開催 墓石デザインにも取り組む



粗削りしてある石を
サンドペーパーで磨く

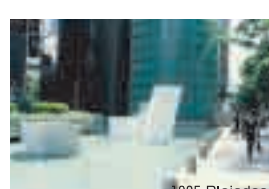
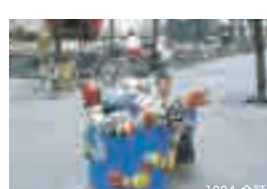
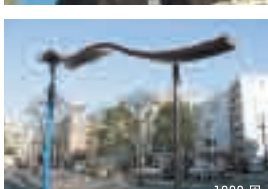
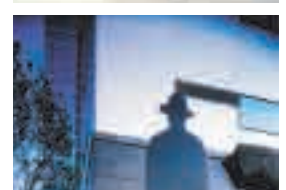


たがね ハンマーで
石彫を体験

都市機構のパブリック・アート



作者	設置	地区：作品名
流 政之	1958	東鳩ヶ谷：無題 (ファニチャー群をデザイン)
中島 修	1969	百草：石のオブジェ
高瀬 昭男	1977	北砂五丁目：記念広場
関根 伸夫	1983	待ちぼうけ広場：金沢シーサイドタウン
小口 一也	1986	光が丘パークタウン：FAMILY
クロード・ライール	1987	若松二丁目：大地の女神の胎内
菊竹 清文	1988	大川端リバーシティ21：光の庭
岡本 敦夫		多摩NTリベレ向陽台：女 男
永原 浄	1989	リバーピア吾妻橋：凧
中村 嘉男	1990	ちはら台：ふれあい
N・ド・サンファル	1994	ファーレ立川：会話
J・ポロフスキー		ブリーフケースを持った男
S・J・アクパン 他89名		見知らぬ人 他
ロイ・リキテンシュタイン	1995	新宿アイランド：Large Wave
長沢 英俊 他7名		Pleiades
ロバート・インディアナ		LOVE 他
D・ビュレンニュー	1996	シーリアお台場：25のポルティコ-色彩の繁栄
福田 繁雄		あ・ん
樋口 正一郎		ねじりハチマキ
グラス・O・フリーマン	1997	パルロード赤羽：七福神
三島 喜美代 他17名	1998	HAT神戸：WORK-N 他
水田 勢二 他26名及び市民	1999	ビューコート住吉館他：神戸住吉 交友プラザ ハート・アート計画
ジョゼ・ド・ギマラインシュ	2000	プラザシティ立川：幸福の木 他
アン・グラハム	2001	アートアベニュー立川：ウィッシュ・トランスミッター 他
団塚 栄喜 他4名	2002	大泉学園ゆめりあ：空からのメッセージ 他
カッペル・スル・ターヴォ	2003	横浜アイランドタワー：運動と瞑想の必要性
アニッシュ・カプーア		ミュウザ川崎：ダブル・インバージョン
フロリアン・クラール		ムーブメントNo.3
土屋 公雄		記憶の風景
鴻池 朋子 他3名		コンチェルトエンジェル 他
城戸 真亜子	2004	リバーハーブコート南千住：ハービー 他
流 政之	2005	コンフォール東鳩ヶ谷：住塚(SUMIZUKA) 他



※1©Anzai ※2©成田 弘 ※3©戸田 勝

独立行政法人 都市再生機構

www.ur-net.go.jp/

本社 技術・コスト管理室 〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町六丁目50番地1横浜アイランドタワー15F TEL.045-650-0659
 埼玉地域支社 〒336-0027 埼玉県さいたま市南区沼影1-10-1ラムザタワーA棟 TEL.048-844-2000